

思  
い  
出  
す  
人  
々

西山 厚 全24回

第4回 【志貴皇子】

志貴皇子しきのみこといえ、すぐにこの歌を思い出す。

石いしばしる垂水の上のさ蕨の

萌え出づる春になりけるかも

垂水は滝。流れ落ちるのは雪解け水。春になって蕨が顔を出した。春を見つけた喜びの歌。万葉集のなかでも屈指の名歌だと思う。

志貴皇子は天智天皇の皇子のひとり。天智天皇の皇子と弟が次の皇位を争った壬申の乱のあと、目立った活躍がなく、不遇な状況にあったとされる。

しかし、持統天皇三年（六八九）に撰善言司（よきことえらぶつかさ）に任じられたのには心ひかれる。

撰善言司は『善言（よきこと）』という本を作る役所。中国の制度にならない、先人の善言や教訓を集めるために創設された。その際、志貴皇子の文才が注目されたのだろう。

私もやりたい。上を目指したい人にとってはなんの価値もないただの閑職だろうが、初めからそんな気がない人間にはとても魅力的な仕事である。

志貴皇子が亡くなって五十年あまりが過ぎて、志貴皇子の子どもが天皇になる。人生はおもしろい。